河川敷などで繁茂して植物多様性に影響を及ぼす草本類

【問題種】

アレチウリ、アメリカネナシカズラ、アレチハナガサ、オオオナモミ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、ネズミムギ、ホソムギ

【主な種の生態】

〇アレチウリ

北アメリカ原産のウリ科の一年生つる植物。最初に静岡県で確認された。

左：河川敷一面に広がるアレチウリ
上：樹木を覆いつくすアレチウリ

〇アメリカネナシカズラ

北アメリカ原産のヒルガオ科の一年生つる植物。寄生植物で、寄主を選ばない。

〇アレチハナガサ

南アメリカ原産のクマツヅラ科の多年草。

〇オオオナモミ

メキシコ原産のキク科の一年草。世界に広く分布している。

〇オオブタクサ

北アメリカ原産のキク科の一年草。
最初に静岡県で確認された。栄養が
豊富な河川敷で大群落を作る。

オオブタクサ

〇セイタカアワダチソウ

北アメリカ原産のキク科の多年草。明治の中頃観賞用として輸入された。昭和30年以降になって分布を拡大した。

〇ネズミムギ

ヨーロッパ～北西アメリカ原産のイネ科の一年草又は二年草。世界各地の温帯に帰化する。明治初期に牧草として輸入された。現在植生工に多用されている。

〇ホソムギ

ヨーロッパ、温帯アジア、北アフリカ、南西アジア原産のイネ科の短命の多年草。明治初期に牧草として輸入された。現在植生工に多用されている。

【侵入経緯と県下の分布状況】

いずれの種も県下の河川敷、造成地などに広く分布している。

【加害状況】

〇植物種の多様性の影響

アレチウリ、アメリカネナシカズラなどのつる植物は他種の植物を覆ってしまうことで駆逐し、在来種の生育地を奪う。

〇花粉症を引き起こす

オオブタクサ、ネズミムギ、ホソムギなどは花粉症を引き起こす原因となる植物である。

〇河原固有植物への影響

【対策事例】

〇アレチウリ駆除の事例－天竜川、三峯川

アレチウリが繁茂して他の植物がなくなり、従来の河川環境が破壊されるのを防ぐため１年に１回、ボランティアを集め抜き取りによる駆除を行っている。

実施主体は市民団体が中心で、共催として自治体、後援では国土交通省、漁協等も名を連ねている。

〇セイタカアワダチソウ除草の事例－宮崎県

道路敷、河川敷において群生し、河川構造物への影響、在来種の影響を及ぼすと考えられたため、宮崎県全域で駆除に取り組んでいる。

実施主体は県で、宮崎県庁関係各課からなる「セイタカアワダチソウ対策検討会議」が平成７年度に設置され、対策会議が行われている。地域住民に向けてラジオや広報誌による啓発活動も行なっている。

【参考文献】

秋月岩魚（1999)、ブラックバスがメダカを食う、222p、宝島社、東京。

日本生態学会編（2002)、外来種ハンドブック 390p、地人書簡、東京。

丸山隆（2002）バスフィッシングと行政対応の在り方、日本魚類学会自然保護委員会編；川と湖の侵略者―ブラックバス、99 － 126、恒星社厚生閣、東京。